



和光の緑と湧き水だより会報 Verda 216号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会は、白子大坂ふれあいの森の会と協同で会報を発行します。

作成：高橋絹世 連絡先 048—462—9912

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

自然に親しみ、湧き水を守るボランティアに参加しましょう 会 員 募 集 中

2022年2月～2022年4月の主な予定表 (2022年2月発行)

予定	全体会	新倉ふれあいの森	富澤湧水・大坂ふれあいの森
2022 2月		19日(土) 定期保全 月末の水曜も活動予定	12日(第2土) 富澤湧水斜面手入れ 16日(第3水) 大坂ふれあいの森
3月	10日 坂下公民館 和光の自然講演と 湧き水の会活動紹介	19日(第3土) 竹林整備 月末の水曜も活動予定	12日(第2土) 富澤湧水 16日(第3水) 大坂ふれあいの森
4月	新倉ふれあいの森の野草 観察とタケノコ掘(未定)	16日(第3土) 竹林整備 月末の水曜も活動予定	9日(第2土) 富澤湧水 20日(第3水) 大坂ふれあいの森

1. 柴崎市長に面会し「緑と湧き水創出の基金」として寄付しました



2022年2月2日、企業とNPO法人との連携でトラスト制度が進展するよう願って、柴崎和光市長に面会し、柳下技研社長柳下勇氏と共に緑と湧き水創出のための基金として、20万円を和光市に寄付しました。赤松さんに日程等を調整していただきました。下記の趣旨を添えてお渡ししました。

「当会では、これまで約20年にわたり、和光市における身近な自然を知り、守り、活かす活動を続けて来ました。しかしながら、近年の急速な開発による身近な自然の消滅に危機

感をいただいております。これまでに、柳下技研様より企業のSDGsの重要な活動として、湧き水の保全に向けてのご寄付を会にいただきました。市内の事業者の方々からも活動への共感、ご寄付を戴き感謝しております。益々開発が進む和光市内において、和光市の事業者と市民である当会が協力して、「緑と湧き水の創出の基金」として、些少ではありますが寄付をさせていただきます。子どもたちにとって身近な自然は重要な環境学習の場であり、市民の憩いの場として、恒久的な保全は不可欠です。白子地区の「富澤湧水」や「大坂ふれあいの森」、新倉の「新倉ふれあいの森」は私有地であり、公有地化の指定などによる将来的な維持管理が不可欠です。このような活動が市民の先駆けとなり、市民と事業者、行政との懸け橋となって、微力ではありますが活動を続けていきたいと思っております。よろしく願いいたします。(以下略)

2. 和光市のここがすごい！ 湧き水探検 ワークブック 完成 2022 年 1 月

ワークブックが出来るまで



和光市の自然環境の特徴は、湧き水があることです。特に白子地区には、斜面林と湧き水が一体となった“富澤湧水”や“大坂ふれあいの森”があります。ここは都市部の中、周囲はマンションや住宅がどんどん増えています。その一角で、長い間湧き水の会が富澤湧水、大坂ふれあいの森、熊野神社周辺の白子宿にかかわる活動が続け、大切に守ってきました。様々な観察会や初任者教員研修会、お茶の水女子大学地理学巡検、第四、第五小学校の環境学習等のために、情報を集めてきました。この度この地域の特徴をまとめ、湧き水探検ワークブックとして出版しました。B5 版 8 ページのカラー写真入り解説書で、すっきりとしたデザインです。

富澤湧水では、湧き水が湧き出す地質の仕組みや、湧水の流れに棲む小さな生き物たち、湧き水を集めて利用してきた石垣湧水道や様々な湧水特有の形態、また大坂ふれあいの森では、美しい斜面林、都市部に珍しい沢の源頭の様子や地質を紹介しています。春には林床にカタクリなどをめどることが出来ます。また湧き水は歴史的にも重要な存在です。江戸時代には、湧き水豊富な宿場町“白子宿”として栄えていた様子。さらにもっと古く、縄文時代にさかのぼり、湧水地の多い白子川沿いには遺跡が多く、この湧き水も生活に使われていたのではないかと考えられます。そんなロマンが感じられる小冊子にしてみました。

コロナ流行の時代に身近な自然は、ほっと一息付ける所としてますます大切な場所になっています。(株)柳下技研をはじめ事業者からの賛助金を活用させていただきました。あらためて感謝です。今後有効な利用がはかられよう望んでいます。



左の写真は 2000 年に写した炊事場

石垣湧水道からパイプで水を引き、かまどの近くに洗い場があり、お米なども洗って薪で炊いていたそうです。

端にある階段は斜面の手入れ用です。急斜面の樹木で暗くならないよう常に手入れをしていたようです。現在の駐車場に、かつて広い作業場があり、大きな水槽に湧き水を引き込み、常に流水でゴボウやニンジンなどを洗って市場に出荷していた通称午房屋さん。



湧水柵 湧き水を一旦溜めて流れの方向を変える。流れてきた落ち葉や砂などが溜められ、砂は底に沈み上部の上澄み湧水を流せる。しかし、落ち葉がすぐに流れの入口をふさぎ水量が減ってしまうため、落ち葉を取り除く必要がある。湧水流は水路以外に 4 か所側溝があり、その側溝に大量の湧き水が流れ白子川に流れ込む。一か所約 60 ℓ / 分、全体約 300 ℓ / 分。

3. 新倉ふれあいの森の活動

孟宗竹林のある新倉ふれあいの森は、年間を通して保全整備活動が活発に行われています。

特に成長した竹が密集しないよう間引きが通年行われます。雑木林の樹木も成長してきて、今回クヌギの伐採が行われました。2006年に樹林公園から移植した、直径約20cmに成長した木です。今後は切り株から萌芽更新されるかもしれません。切り株は、シイタケ栽培に適した材で、皆さんで、シイタケ菌の菌糸を植えたホダギ栽培が出来るかもしれません。



4. 大坂ふれあいの森の活動・これからの大坂ふれあいの森について

大坂ふれあいの森も変化してきました。森づくりが進んでいます。森の奥に細く続く雑木林を整備したところ、道らしき跡があり、階段を作り道路へ出られるコースづくりを進めています。周辺は家が建ちましたが、大坂道路から森を通り抜けられる道づくりです。ここは斜面林と湧水が保全され、近いうちに公有地となる予定とのことです。ここに長年かかわってきてようやくたどり着いた感があります。

いろんなことが重なって湧き水も流れが良くなりました。春を待つばかりです。



かつての道跡を掘り出す



通り抜け出来る階段作り



湧水の流れが増えてきた水路



植竹一夫さま

新倉ふれあいの森や上谷津ふれあいの森、越戸川での活動など、様々なボランティアで活躍されていた植竹一夫様が、1月末に急逝されました。いつもにこやかで、森の保全活動には確固としたお考えがあり、周りの人達から尊敬され、頼りにされていました。新倉では、穏やかな風情で参加していただきました。急に新倉ふれあいの森が寂しくなってしまいます。残念でなりません。心よりご冥福をお祈りいたします。

2月19日は、新倉でささやかですが、植竹さんをしのぶ会をしたいと思います。

5. NPO 法人 和光・緑と湧き水の会の 2021 年度の主な活動まとめ

新型コロナウイルスが猛威を振り 9 月迄緊急事態宣言と蔓延防止を繰り返していましたが、10 月になり急激に減少しました。新倉ふれあいの森、富澤湧水、大坂ふれあいの森は毎月 1 回の定期保全を実施。時間的に余裕が出来て、各フィールドの成り立ちや歴史を振り返り、会員向け勉強会を実施しました。新任教員研修会実施。10 月以降学校の環境学習への協力、樹林公園の森づくり等活動を広げました。

10 月初旬に毎日地球未来賞の事務局から応募の勧めを受け、申請しましたが入選しませんでした。第五小学校 4 年生の湧水自然観察会は 11 月 12 日に実施。120 名の生徒を 3 班に分けて富澤湧水、大坂ふれあいの森、熊野神社など 3 か所をまわり、和光の湧き水の見学と歴史を伝えることが出来、白子地域の活動が役立っています。

白子地域にある湧き水をより知ってもらおうと、白子川に流れ込んでいるところに、「湧き水の流入口」という看板を 5 か所作り、設置に向け行政に働きかけをしていますがいまだ未実施。

柳下技研社長 柳下勇様、和光の湧水の保全活動を行っている当会への寄付をいただきました。事業者の方々から、活動へのご理解に感謝です。湧き水への愛着を持ってくださり、持続可能な社会に貢献する SDG s の実践のご寄付は有難いことです。このような状況で、1 月には小冊子「和光市のここがすごい！湧き水探検ワークブック」が完成しました。また「緑と湧き水創出の基金」として、和光市に寄付をしました。今年度「緑の基本計画」策定委員として参加し、日ごろの活動や情報を大いに役立てました。社協記念大会では感謝状を受理しました。

1	新倉ふれあいの森	毎月 2 回の観察と保全活動。春の野草観察とタケノコ掘。七夕用竹の提供。ボランティア体験	25 回	150 名
2	富澤湧水	毎月 1 回の観察と保全。富澤湧水の歴史勉強会。ワークブック作成。ボランティア体験	18 回	100 名
3	大坂ふれあいの森	毎月 1 回の観察と保全	12	60 名
4	和光樹林公園	ヒロハアマナの森の観察と保全 樹林公園きずなプロジェクトに参加し植樹	5 回	30 名
5	緑の基本計画作成委員会	湧き水の会から高橋勝緒が出席	5	
6	新任教員研修会	7 月 30 日 芝崎市長も参加され、湧水群研修	1	18 名
7	学校への協力	第 5 小学校 4 年生の地域学習「湧水自然観察会」	1	140 名
8	社協記念大会	ボランティア体験等事業に協力し感謝状を授与		
9	その他	第 4 小学校区社協	3	3 名
10	「緑と湧き水の創出のため」寄付金	和光市へ寄付。柴崎市長に面会し、お話を伺うことが出来ました。2022 年 2 月 2 日	1	8 名
11	ワークブック出版	1 月末に 300 部出版、配布中 2022 年 1 月	30	
12	坂下公民館主催講演会	3 月 10 日予定、公民館主催「和光の自然の紹介と湧き水の会の活動」		